

□ 地層処分事業の理解に向けた見学会（2023年11月9日／北海道／参加者10名）

講座について

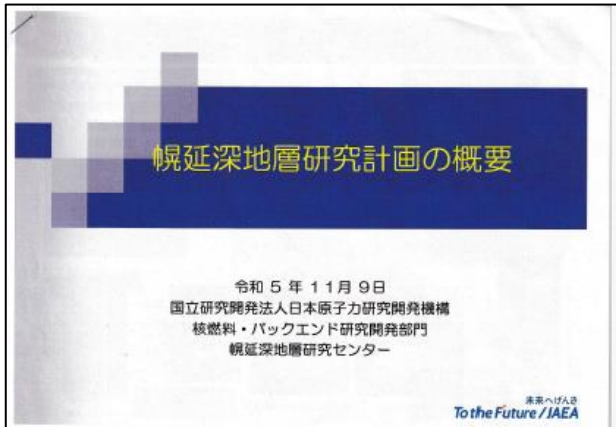
見学先：北海道幌延町／幌延深地層研究センター（稚内市から南に車で1時間程度）

<https://www.jaea.go.jp/04/horonobe/index.html>

担当：佐久間圭佑氏、片田偉奈雄氏

（日本原子力研究開発機構幌延深地層研究センター）

題目：幌延深地層研究計画の概要



内容：

- ① 幌延深地層研究センターでの取り組みについてパワーポイントで解説を受ける
- ② 同研究センター「ゆめ地創館」の展示物の説明を受ける
- ③ 地層処分実規模試験施設の見学
ガラス固化体（模型）／鋼鉄製オーバーパック／ベントナイト緩衝材の実機を見学
- ④ パーチャル体験
350m 調査坑道をバーチャルで体験
- ⑤ 西立坑アクセスルームで、地下坑道掘削について動画視聴／入口の見学
- ⑥ 質疑とアンケートの作成

Q & A：以下に一部を紹介します。

Q: 国の関係省庁を教示してください。

A: 文科省、経産省、原子力規制委員会が関係省庁です。なお、HIP（幌延国際共同プロジェクト）は進められていますが、外務省は関係官庁とはなっていません。

Q: 協定書にある甲、乙はどこか？

A: 甲は北海道、乙は幌延町になります。

Q: 協定書の第7条の協議で変更された事は？

A: 第7条での協議で、研究期間について当初の2001年から20年程度としていた計画を変更し、2028年までの期間に必要な成果を得るように取り組むこととしました。

Q: 研究の成果を考えると、実際に高レベル放射性廃棄物を持ち込んで、研究成果を実証することは考えませんか？

A: 高レベル放射性廃棄物は持ち込みません。協定がありますので持ち込みは出来ません。茨城県の東海村の研究施設では可能ですので連携して研究しております。

Q: 研究終了後、9年後のこの施設の原状回復はどの様に考えますか？

A: 地下は完全に埋め戻し、地上施設も撤去します。いわゆる原状復帰です。

Q: 研究センターの紹介で「成果」を強調していますが、まだ最終段階にはなっていないので、「成果」は「目標」程度ではないでしょうか？

A: 当研究センターでは、全体の研究計画に基づき年度ごとに計画を立て、毎年度その成果を立地自治体や地域の皆様へ報告しており、概況説明での成果はこれにあたります。

Q: 施設も含めて最大 300 人ほどの関係労働者がいるようですが、その方たちの住居はどこですか？

A: 原子力機構職員は、幌延町市街地にある寮や社宅といった宿舎に住んでいます。JVさんは仮設の宿舎を用意しています。

Q: 通勤時間はどれくらいですか？

A: 10分くらいです。遠いところでは稚内なので1時間ほどかかります。

Q: 施設具現化の先が見えない状況での試験や実験等を重ねる葛藤はどの様に考えているか？

A: 研究成果を見出すことが、研究者やエンジニアの使命であると考えています。

現場風景



ゆめ地創館での解説



ゆめ地創館の見学



ゆめ地創館の見学



地層処分実規模試験施設の見学



集合写真

西立坑アクセスルームの見学



西立坑アクセスルームの見学